

## 北関東支部10周年記念講演会

日本原子力学会北関東支部設立10周年を記念した表記講演会が去る平成23年1月21日に東海村テクノ交流館リコッティにおいて開催された。当日は天候にも恵まれ、近隣の企業や研究機関、大学などから当日申込も含めて140名近くの多数の方々に出席頂き、支部設立10周年に相応しい記念講演会となった。

北関東支部は平成12年に茨城・栃木県の会員を主体に設立され、原子力学会では関東・甲越支部に続いて規模の大きい2100名余りの会員を有している。周知の様に、茨城県は日本で最初の商業用原子炉が運転を開始した土地であり、さらに日本原子力研究開発機構などの主要研究機関や原子力事業者を多数有する日本の原子力を支える重要な拠点である。

講演会は、石隈北関東支部長の開会挨拶に引き続き、10周年記念講演として「原子力を巡る世界の動きと日本の役割」と題し、尾本彰原子力委員会委員(東大特任教授)にご講演を頂いた。尾本氏は前IAEA原子力発電部長として長く海外でご活躍されており、国際的な広い視野から見た現在の原子力に係わる世界の動きと、日本に求められる役割について非常に丁寧な語り口でご説明をされた(写真1)。ご講演では、21世紀のエネルギー供給の課題として、低炭素社会への移行を目指す中での原子力の役割を解説されるとともに、開発途上国の人口増と生活の質の向上を支えるためのエネルギー供給について説明が行われた。また、原子力に関連する世界の動きとして、ここ最近の各国の商用炉稼働率の向上や原子力発電への期待の高まりについて、ご自身のご経験も踏まえて解説された。一方で、グローバル化とネットワーク化の話題として、欧州や米国で進められているSNE-TPやCASLなど原子力利用のR&Dを産官学が協調して推進するシステムや原子力教育のための地域ネットワークの話題など、最新の原子力を取り巻く環境についても国際的な観点から御講演された。(ご講演で使用された資料については、尾本氏のご厚意で北関東支部HPからダウンロード可である)

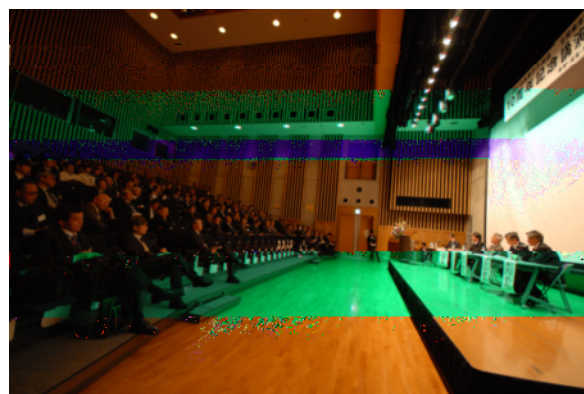
その後、「支部活動のさらなる活性化に向けて」と題して約1時間のパネルディスカッションが行われた。パネラーには記念講演を頂いた尾本氏に加え、辻倉日本原子力学会会長、北関東支部とほぼ同時期に設立された関東・甲越支部の関本支部長、地元有識者として茨城新聞社報道部副部長の山本氏、以上4名の方にパネラーとしてお招きし、パネルディスカッションを行った(写真2)。

ディスカッションに先立ち、石隈支部長から支部講演会、若手研究者発表会、オープンスクールなど北関東支部のアクティビティを示す活動紹介が行われた。パネルディスカッションでは各パネラーの方に原子力学会との関わりを含めて自己紹介をして頂き、その後(1)原子力学会、支部、会員に求められるもの、(2)支部活動のさらなる活性化、将来に向けての期待、を主題としてパネル討論を行った。茨城新聞社の山本記者は、宇宙研究開発機構の「はやぶさ」「あかつき」を例に挙げ、原子力を含む国家的プロジェクトでは社会の応援・声援を受けることの重要性について述べられた。また支部活動を始め、原子力界の今後の発展の為に、学会という専門家集団の殻に閉じこもることなく、信頼性のある情報を分かりやすく、相手の立場や目線で伝えることの重要性を全てのパネラーの方が述べられていたのが印象的であった。

講演会終了後に行われた懇親会では60名を超える多くの方に出席頂き、支部活動をこれまで支えてこられた方々のご挨拶も頂きつつ、楽しい懇談が行われた。



(写真1:尾本氏による記念講演)



(写真2:パネルディスカッション)